

平成27年度 鞠智城跡「特別研究」採用者一覧（五十音順）

	採用者	研究分野	所属	研究テーマ	研究概要
1	イガラシ モトヨシ 五十嵐 基善	文献史学	明治大学文学部	西海道における武具の生産・運用体制と鞠智城	鞠智城における「兵庫」の存在から、西海道における武具の生産・運用体制を分析・復原することにより、鞠智城の長期的な展開・性格の解明を目指す。
2	イノウエ ショウ 井上 翔	文献史学	東京大学大学院 人文社会系研究 科日本文化研究 専攻	鞠智城と東北の城柵官衙	鞠智城と古代東北地方の城柵官衙遺跡を比較・検討を行い、古代国家における辺境支配のあり方を考察することにより、鞠智城の歴史的意義について言及する。
3	オオタ サトシ 太田 智	考古学	福岡大学大学院 人文科学研究科 史学専攻	消費者から見た須恵器の流通－鞠智城・官衙・周辺集落の比較検討を通して－	鞠智城及びその周辺集落、官衙遺跡出土の須恵器を分析し、朝鮮半島の山城と集落の様相とも比較検討することで、流通の側面から鞠智城の特質を解明する。
4	コジマ アツシ 小嶋 篤	考古学	九州国立博物館	鞠智城築造前後の軍備	「兵器」に焦点を当て、古代山城、集落、官衙、寺院、工房・古墳等の出土資料を検討することで、鞠智城築城前後の軍備、特に、律令制下の肥後国の領域を中心とする7世紀後半の兵器体系を明らかにする。
5	コンドウ コウイチ 近藤 浩一	朝鮮史学	京都産業大学等	新羅との外交・交流史からみた肥後地域・鞠智城－八角形建物を代表とする鞠智城Ⅱ期に対する再検討－	鞠智城の八角形建物と新羅の八角形建物との比較検討を行い、新羅における山城行政等の分析を踏まえ、鞠智城Ⅱ期の役割・性格を検討する。